

田原市立田原福祉専門学校同窓会機関誌

たっぷく だより

No.17

編集発行 平成 26 年 3 月 1 日

田原福祉専門学校同窓会
会長 松原 宣子



田原福祉専門学校同窓会を開催

田原福祉専門学校同窓会では、この秋、卒業生全体の親睦を図ろうと「同窓会」の開催を企画しました。懐かしい顔ぶれの中で、充実した時間を過ごしてみませんか？

会場確保の都合上、人数の把握をしたいので、出席できる方は電話、Eメール、FAXにて氏名・連絡先をお知らせください。

- 開催日時：平成26年11月16日(日) 11時～
- 会場：豊橋駅周辺 ホテル等
- 会費：5,000円以内
- 内容：活躍している同窓生の話を聞こう!!
- 出席報告期限：平成26年4月30日(水)まで
- 連絡・問合せ先：電話 0531-22-3939 FAX 0531-22-7340
- E-mail: senmon@city.tahara.aichi.jp

卒業生インタビュー

『大切にしていること』

第十三期生 杉浦 敏明

今回は、愛厚ホーム西尾苑で働く卒業生に、今のこと、これからのこと、介護観について一緒に考えさせられるような対談ができました。取材協力有難うございました。

施設はどんな感じですか？
特養でユニット型をやっています。



愛厚ホーム 西尾苑

ユニットの体制を教えてください。

一ユニットは十人です。

ユニット夜勤の時の様子は？

三交替体制で昼間は十人を一人で見ます。早番、遅番ともに交替で対応します。

聞いていると結構ハードな感じがするのだけれど。

そうですね、みんなナースコールが鳴ると結構な忙しさにはなります。

個室で認知症の程度は、軽度といわずに重度の人もいます。

なかには、重度の人もいます。

一人対十人って、だいたいどこもそんな感じなのかな？

ユニットだと最低人数だとは思いますが。

それで買い物に行ったりとかもできるの？

外出は、あまりできてないですね。一日の流れは、だいたいどのよう

な感じで動いているのですか？

一日は、朝食から始まり、午前のティータイム、昼食、午後のティータイムで晩御飯、就寝というのが一日の流れ。

ご飯はみんなで作るの？

副食だけ厨房でつくってもらって、味噌汁、お吸い物、ご飯はユニットでつくります。

特養のユニット型なので、グループホームとはまた違います。

今、そこで四年目の勤務になりました。

中堅どころですね。新しい人が来たら教えたりとかの立場ですね。

そうですね。

仕事をやっていて大変だと思うことはありますか？

夜勤帯が大変ですね。一人で二十人見ることになるので。緊急時の救急搬送とかになるとスタッフも一緒に

についていきます。そのような時は、そのスタッフの分もフォローをしないといけない。コール対応をすることで精一杯のこともあると思います。

そういうことがあったんですね。

自分はあたっていないけれど、そういう状況はあると思います。

夜の人手がない時の急変時は、心配ですよ。施設ではターミナルケアをやっていますか？

はい、やっています。ターミナルになると御家族とその時は苑で迎えるか病院で迎えるかとかの話をします。急変時とかは看護師さんや御家族に連絡をします。

話を聞いていると、業務範囲が広がって大変な様子が伺えますね。

今後、こういうものがあるといいな、こういうサービスがあるといいなと思うことはありますか？

今のところは、外出が充分にできていない気がしていますので、もう少し多く、みんなで外出できるといいなと思います。

外出をサポートしてくれるボランティアが居てくれたら良いなとか、そういうのはありませんか？

喫茶店が週二回あり、二回ともボランティアさんが来てくれて運営をやってられています。

その施設は、地域とも密着していますよね。

包括も入っているので相談事などにも関わります。

これからは、地域密着型と言われているから、地域の人に手伝って貰ったり、何か逆に地域に返して貰ったりだとか形になっていくのかなと思っています。

専門学校でも毎年イモを植えてたつづく祭で出品していますが、地域の人に手伝って貰っているからできているし、そういう関係ってすごくいいなって思います。そのような感じにやっていくには、何が必要なのかな？

行事ごとを増やすことが出来た



ら、地域の人達も参加できるかな、と思います。

そうですね、まずそこに入っていくのに敷居が高いかなと思ってしまふものだからね。本当は、子どもからお年寄りまで出入りして、サポートし合えるといいよね。子どもが来るだけでお年よりは喜ぶからね。

これからのビジョンとして、どんなふうにやっていきたいのか聞いてみたいと思うのですが。

もう少し介護の敷居が低く、いろんな人が関わられるようになっていくといいなと思います。

介護技術の勉強会には行ったりしてますか？

職場では、外部講師の方をお招きし、職員研修をやっています。AEDの指導も防災訓練に来ていただいた際に講習を受けたりします。事業団本部での研修もあるので、そういうところでスキルアップはできます。

スキルアップもそうだけれど、介護士の質って、これから益々問われていくと思うのですが、数さえ居ればいいという問題ではなくて、相手は人間なので、人としてのそれなりの質を求められる。一般の施設よりもこじんまりしているところだとよけいに、個人の質が問われることがあるのかなと思います。入所者に対して、合う、合わないという職員もいるだろうしね。

事業団は、転勤もあるので従来型からユニット型にえられる方も結構います。従来型だと結構時間に追われてという業務になってますが、ユニット型だと入所者に合わせての業務になるので、思いやりというかそういうところが大切になります。

今までは、入所者に対してレクとかこれをやっているという形での介護であったと思うけれど、これからは、この人が何をやりたいかを吸い上げて、入所者のニーズをどうやって汲み取っていくのか。介護側がやりたいものをやるのではなくて、

「この人が何をやりたくて」というのを、普段の話などから読み取れるような質を持つ介護福祉士がこれから必要になってくるのではないかと思うのですが、どう思いますか。

御家族の方から「その方の背景」「こういうことが好きだったよ」というような情報を聞いておいて、その方と接してみても、こういうのが好きなのかなということを感じて、その方にサービスの提供をしていく。ニーズの把握はやっぱり難しいことではありますね。

特に認知症になってくると難しいですね。話しても返ってこないからね。その人をどうやってサポートしていけば良いのか？

最近思うのですが、この人はどういふふうな人生を過ごしていきたいのかなということが見えてこない、どういふ介護をしていいのかわ見えてこない気がしています。今までは、決められた時間に決められたことをやれば良いということであったけれど、これからは個々のその人が満足できるような人生であるようにサポートしていくために、私達は何をやればいいのか。どうしても今の介護保険だと決められた枠の中でやらないといけない、枠をはずれると対象外で手出しができない部分も



あると思います。そういうこともあるけれど、この人の人生が満足いくように、そのために、どういふことをするのか、介護保険以外で何が使えるものがあつた方がいいのか考えてしまいますね。具体的に何が必要なのかわからないけれど、昔と違って今は多様化になってきていて、レクは参加しなくても良いとか個人の主体性を尊重しますよね。かつては皆な参加しなくてはいけないというやり方が、今では『それもその人の過ごし方だから、それで良いよ』となくなってきました。そういうところですごく難しい。本当にこの人は一人で行きたいのか、別のことがやりたいから参加しないのだろうか。そういう



うことをわかってあげると、介護士が必要になってくると思う。

経験が大事ではあるけれども、それが業務に追われて考えられないというところもあると思うし、今は介護士も大変だなと思う。最初の頃に比べてレベルも上がってきているかと思うし。介護だけでなく、いろんなことを考えないといけない。趣味でも何でも役にたつことがある。自分と同じ趣味だと話を良く聞けるとかね。自分自身もいろんなことに挑戦しつつ、相手の思っていることをどうやったら引き出せるのかを考えないといけない。

経験によって、必要なことがわかってくることも大事だけれど、笑顔で日々を過ごせることが一番かな。僕の中では一番。

それは大丈夫だね。笑顔は。

そうですね・・・、はい。

笑顔はほっとできる。それが一番

良くできることなのかもしれないね。

介護保険が年々変わるでしょ。介護士達の意見が反映されるといいのだけれど。現場の声を聞いてくれるとね。それがモチベーションにつながると思う。自分達の仕事をうまくえでの、いかにモチベーションをあげるかというところは大事なことですよね。

モチベーションをあげるのに、どういう努力をしていますか？

モチベーション・・・ですか・・・。

これがあったら仕事いける、とか。

笑顔を決やさないということや、例えば、休みの日に、自分の中で切り替えが大事かなと思っています。

切り替えをする中でやっていることはありますか。

自分の好きなことをやるのが一番。出かけることが好きなので、自然を感じに外出します。

そういうところで充実して、次の日の活力を得て仕事をする・・・みたいな。それで、入所者にパワーをあげるってことです。

笑顔ももらえたらいいな、と思っています。

たまに、学校に来ることがあるじゃないですか、そんな時に同級生に



施設での雛人形展示

会って何かいろんな話をする元気が出るみたいなのもありますか？

やっぱり原点に戻れるみたいなのがある。

そうだよ、卒業したら終わりではなくて、折々に学校に来て、同級生だけでなく先輩、後輩と困ったことを話し合える時間が持てるってとてもいいことなのかなと思います。

一緒に学んできた仲間、先輩、後輩、先生方と一緒に交えて話をする、と原点に戻るだけでなく情報交換の場にもなるのかなと思います。

是非在校生に、「卒業しても僕みたいに来てますよ。」と宣伝して下

さい。

毎年、卒業生もたつづく祭に来ていろいろあると思うので、そういう部分をこういう場で話をして、いい解決案があれば、皆で話し合ったりすることができるといいですね。

あと、喋ることで、若干ストレスの解消にはなる。

来年も、たつづく祭に来てもらえるよね。

はい。

今日は、本当に有難うございました。

ハイインタビュアー・松原宣子

人と人の絆が繋ぐもの

専任教員 木村 由紀子

「最近の学生は変わってきた。ゆとり世代の学生達は……。」と言われるが、教職員は……自分達は、開校当時の先生方の教えを受け継いで、学生達を教え育てることができているのでしょうか……。

昨年春、再度教員として着任し、新カリキュラムに戸惑いながら、当初は自信を失うことの連続でした。「自分の専門性は何なのか、自分は何者なのか、自分は教壇に立つ資格があるのだろうか。」と自問自答の毎日でした。

しかし、学生達や卒業生が教えてくれました。福祉の現場での厳しい仕事を続け、現場で実習指導者となり、眩しいほどに立派な介護福祉士



学校に遊びに来てくれた12期生

として活躍している卒業生に、「立派になったね。」と声をかけると「先生に教えられたとおりにやってきただけですよ。」と言ってくれます。別の卒業生も実習カンファレンスで、指導者として、また自分も学生時代苦労して学んできた先輩として、実習生にアドバイスをしてくれました。

別の卒業生は「先生は『鬼の木村』だったんだよ。」と笑いながら後輩に話し、実習中の緊張を解し、優しく丁寧に指導をしてくれました。数え切れない程、多くの卒業生との心温まる再会があり、卒業生の成長した姿と心に感動しました。

卒業生が現場へ出て、介護福祉士として立派に仕事をこなすだけでなく、先輩として、指導者として、学生達を教え導いてくれている。私自身は本当に微力でも、こうして人の繋がりが続いていくのかと思うと、とても嬉しく思います。

学校が開校して、十八年が経過し、この田原市に田原福祉専門学校がしっかりと根付いてきていることを実感する出来事も沢山ありました。田原祭りなどで学生が地域の方と関係ができており、別のイベントに学生と出かけた時に、地域の方から声をかけて頂いている場面に遭遇しました。学生達の人懐っこさと、コミュニケーション能力にも感心しまし



新入生歓迎交流会

たが、それは、これまでの先輩達が築いてきた絆なのだ実感しました。

「たつぷく祭」においても、以前と思うと学生の人数も少なく、教職員数も減っているのも、無事実施できるのかという不安もありました。しかし地域の方や関係施設、卒業生の皆さんにご協力をいただきました。精一杯の「おもてなし」をすることができました。

実習でも、学生達は力を見せてくれました。利用者さんの笑顔を引出す力は、まさに介護の専門性であり、自信を持っていい。「多職種連携の中で、介護福祉士の立場はいかに……。」と思うかも知れませんが、一番利用者さんの身近にいるからこそ、わかること、気づくこと、できることがあるのだと思います。

まだまだ課題は多いですが、この一年で学生達の底力を見ることができました。ゆとり世代と言われる学

生ですが「やる時はやる！やれる！」のです。様々な能力・価値観に個人差があり、必ずしも全ての学生が同じように頑張れるわけではありません。それは、今後就職してからも同様で、どこの社会にもあることです。しかし、そういった状況の中で、この「たつぷく」は、学生達一人ひとりが、それぞれの力を発揮して、皆が輝ける場であると感ぜ

ます。「これからの社会を、この学生達に託そう。明るく素直で頼もしい学生達が、巣立って行くことを喜びと期待をこめて、応援していきたい。」と心から思うことができた一年でした。みんなに出逢えて良かった。本当にありがとうございます。そして私自身、「人に関わる仕事を精一杯頑張ろう」と元気をいただきました。

最後に在校生・卒業生へ

皆さんは、これから社会人となり、人生において様々な岐路に立つことと思います。学生の時のように、自己主張が通らないばかりか、理不尽と感ずることもあります。しかし、私の持論ですが、「ピンチの時こそ成長のチャンス」です。大人として責任を果たし、職場・家庭・社会から「必要とされる人」になってください。ずっとずっと、応援しています。

● 学校行事 ●

公開講座

平成二十五年十一月九日(土)

『ぜんきゅうさんとまあるい心』

講師：にわ ぜんきゅう氏

本年度の公開講座は、石の鳥造形作家・にわぜんきゅうさんを招いて講演会を開催しました。

講演では、実際に高齢者の方々が描いた絵やおじょうさんを見せていただき、先生が高齢者の方々とふれあい、体験していることを、その時の心温まる会話を紹介していただきながらユーモアあふれるお話をしていただきました。

今回は、おじょうさんを描く体験もあり、参加者の皆さんが、先生の



おじょうさんを描いている
学生や参加者の様子



指導のもとに三種類のおじょうさんにチャレンジしました。
初めての体験に、参加者はとまどいながらも、手順どおりにやることで、個性溢れる自分流のおじょうさんを描くことができ、楽しく、有意義な時間となりました。

● スポーツ交流 ●

田原福祉専門学校では、学校の位置する地元「巴江町内会」の仲間入りをさせていただき、ソフトボール大会、ミニバレーボール大会に参加させていただいています。

これは、学生が何かスポーツをやりたい、やるなら大会に参加したい、という気持ちを、町内会の方が受け入れてくれて実現したものです。今年で三回目となる大会出場で、ソフトボールは、念願の初勝利をつかみ取りました。今年参加した学生は、早くも来年の参加に胸膨らませています。



ミニバレーボールは、地区の練習と一緒に参加をさせてもらっています。大会で勝つことができたのも、練習場所の提供などすっかりお世話になっているおかげと、感謝することばかりです。



同窓会総会を開催します

平成26年5月25日(日) 午前10時～

田原福祉専門学校 講堂にて

☆☆☆総会終了後に、さつまいもの植え付けを実施します。☆☆☆

学校だより

職員紹介



河合生恵

田原福祉専門学校勤務になり一年が経とうとしています。様々な学校行事や授業、色々な学生との出会いがありました。

初めての入学式、へとへとになって優勝した新入生歓迎会でのチーム対抗ソフトバレーボール大会、大空にたっぶくの大風が見事にあがった凧まつり、田原祭りでのたっぶく組の勇姿、たっぶく祭でのおもてなし、みんながはじけた後夜祭等どれも鮮やかに記憶に残っています。

行事や実習をするたびに成長していく学生を見て頼もしく感じます。直向きに取り組む姿、真剣に問いかけてくる姿、何度も何度も練習して



介護技術検定試験に涙しても向かってくる姿、やさしい笑顔で利用者さんと関わる姿など、輝く姿にたくさん出会えました。温かい気持ちになりました。

これから日本は、世界に先駆けて超高齢化社会を進んでいきます。この難題に日本がどう向かっていくのか世界が注目しています。これから益々期待される専門職です。必要な技術や知識を習得できるように学校生活を支えていきたいと思っています。若さあふれるたっぶくの学生に刺激を受けながら頑張っていきたいと思います。どうぞよろしく願っています。



渡會俊也

田原福祉専門学校勤務となり、はや一年が経とうとしています。これまで経験した市役所での業務との違いに戸惑い続けた一年でした。

「たっぶく」に来て、いろいろな驚かされましたが一番驚いたことは、とにかく、卒業生が学校に来ることでした。教職員への近況報告、悩み相談、昔話に花を咲かせる姿を

見ていると、「たっぶく」が大好きなんだなと感心します。

また、個人的な感想ですが、歴代担当職員からも「たっぶく愛」を感じています。顔を会わすたびに現況を聞かれ、学生の応募状況を心配され、学校に目を向けてくれていきます。僕にも今後備わってくる感情のかなど期待しています。

今まさに十七期生のにぎやかな子たちが、社会に羽ばたこうとしています。正直不安でなりません、そんな子たちが、成長した姿で学校に顔を出してくれることを楽しみにしています。

職員が学校を愛し、学生を愛し、卒業生の皆さんに感謝し、学校運営に全力を尽くすことで、みんなに愛される「たっぶく」があるのだと感じています。



大林正典

早いもので田原市消防本部から異動となり一年が経過しようとしています。平成八年の開校当初、専門学校の生徒さんと私たち市職員とは定期的な交流があり、当時は私も若

く、学生とも年齢が近いこともあり、第一期生とよく語り合ったことを思い出します。

現在は十七期生、十八期生の学生が通う平成二十五年。あれから十六年が経ち、この学びやで事務を執ることになり、田原福祉専門学校とは不思議なご縁を感じています。

私自身、介護や福祉に関して専門家ではありませんが、消防職員の時は福祉施設に何度も足を運び、消防職の前には介護保険係に在籍し、介護認定調査員も経験しました。また、自宅で祖父の在宅介護を経験しましたし、昨年自身が交通事故に遭い、一時介護される立場を体験するなど介護や福祉にも不思議なご縁があります。

今まで培った経験や知識を生かし、仕事の面だけでなく、学生がよりよい学校生活を送れるようサポートしていきたいと思っています。

主に事務所内で事務をしていますので、見かけたら気軽に声をかけてください。



たっぶく ティールーム



今回は、たっぶく祭で大学いもづくりに参加してくれた卒業生達とお疲れ様会を兼ねて、平成二十六年年度同窓会行事の予定、計画などを話しながら、在校生も交えて、同窓会行事への参加勧誘をすることとなりました。

「皆様、お疲れ様でした。今年も良いイモができて、地元の人にお世話になって、在校生は卒業しても是非行事に参加して下さい。芋ほりが楽しかったと聞いて、嬉しく思っています。」と、会長の挨拶から始まり、参加者は普段会えない仲間達と思いいかに歓談し、有意義な時間を過ごすことができたと思っています。

- 卒業生の子達で、今大変なことや心配ごとなどありますか？
- 業務は時間に追われてしまいますね。遅番は、人員体制を考えると、やることも多いです。
- 遅番の時間帯は、施設によってもまちまちですね。
- はい、そう思います。一月に遅番と早番の時間帯が変わるとも聞いています。
- 仕事を回すのが大変です。
- どこもそうだと思いますが、食事の介助も大変ですね。
- 利用者さんの状況にあわせて、形状を変える。細かく刻んだりしてね。
- そこまでして、食への悪い利

用者さんに食べさせないといけないのかな？と思う時もあるよね。

○ 施設によっては、特色を出した食事を提供しています。おはぎとか五平餅みたいなね。

○ こまかくしたり、柔らかくしたりとか、準備が必要にもなるね。

○ 遅番の問題は、いろいろあるよね。テーブルは、どんなものを使うとか。



- ほんの少しづつしか、喉とおらない人もいます。
- 寝たきりで部屋食の人もいます。
- 食べやすい形状にしたつもりでも、それでもつまったりする人も

いるから、充分に気をつけなければいけないこと。

○ 一時期は、胃ろうにする人も多かったような気がする。もちろん、施設によっても違うと思うけどね。

○ 在校生は、せっかく参加してくれているので、先輩達に聞いてね、何でも答えてくれると思いますよ。

○ 何を聞いたら良いのか・・・ちょうど実習が終わったばかりですが、特別には思いつかなくて・・・

○ 在校生の方には是非伝えたいのですが、同じ仕事をしていてもまわせる人、まわせない人がいる。まわせるようになる利用者さんのこともわかってくる。そうなる仕事も面白くなってくる。楽しくなってくる。まわせないと大変さだけが残ってしまうし、ちよつとしたことが、大きな事に繋がることが多い。それは様子観察をしつかりやれば大丈夫、解決できること。『今日は、いつもとちよつと様子が違うな』、とわかるようになってくるとすごい。それをわかるような人にならないといけないし、そうやって欲しいと思いますね。

- 「髪形変えた？」って気がつかない人もいる。気がついても知らん顔している人もいます。それは、気がついたら言わないといけないと思う。伝えなければ、言わないことと一緒にだと思ふ。残念なことだね。
- ひとつひとつの積み重ねで、利用者さんからの信頼を得られると思う。どうしたら、自分のところに

利用者さんが来てくれるのか、要するに利用者さんのニーズをどのようにつかんで、手助けをするかですね。

○ 卒業生の同窓会への行事への参加は、どうしたら卒業生が集まってくれるのかな？

○ たっぶくの卒業生も千人に近く聞いているので、二十六年度は、豊橋駅周辺で「同窓会」を開催したらどうかと思う。

○ それぞれの期別で、取りまとめ役をお願いしていきたいし、PRの方法を検討しないかね。

○ これまでも、今も卒業生集めは本場に課題。今日参加してくれた卒業生の皆さん、まずは自分の周りから、存分にPRをお願いしますね。

たっぶくティールームに参加してみても、これまでたっぶくの先輩の方と話す機会がなかったため、仕事や学校の時の話を聞くことができて嬉しかったです。仕事で大変なこと、例えば夜勤・早番などの時間帯が不規則で、覚えることが沢山あることを教えてもらえて、勉強になりました。同窓会に参加できてよかったです。(在校生 笠井)

- オーナー 松原宣子
- 卒業生 西野優子 高橋延良
- 高橋昌子 花山雅司
- 伊奈見和子 近藤奈見
- 中神祥次 杉浦敏明
- 吉水 誠
- 笠井奈美 林 千絵美